

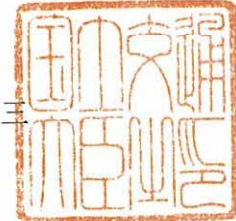


認 定 書

国住指第 3007-1 号
平成 19 年 12 月 26 日

山崎パイル株式会社
代表取締役 山崎 仁 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行規則第 1 条の 3 第 1 項第一号ロ (2) の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
TACP-0269
2. 認定をした構造方法等の名称
MY ベスト（マイベスト）工法（先端地盤：礫質地盤）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

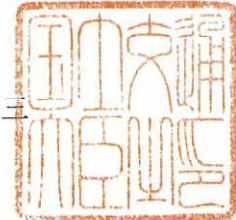


指 定 書

国住指第 3007-2 号
平成 19 年 12 月 26 日

山崎パイル株式会社
代表取締役 山崎 仁 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の建築基準法施行規則第 1 条の 3 第 1 項第一号ロ (2) の国土交通大臣の認定を受けた構造方法について、同項の規定に基づき、下記の通り確認申請書に添える図書から除かれる図書を指定する。

記

1. 認定番号

TACP-0269

2. 認定をした構造方法等の名称

MY ベスト (マイベスト) 工法 (先端地盤: 礫質地盤)

3. 確認申請書に添える図書から除かれるものとして指定する図書

建築基準法施行規則第 1 条の 3 第 1 項の表 3 の各項の規定に基づき、表 3 の各項の (ろ) 欄に掲げる基礎・地盤説明書のうち、基礎ぐいの許容支持力の算出方法に係る図書 (平成 13 年度国土交通省告示第 1113 号第 6 第一号に規定される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期並びに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力として、同号の表中に掲げる式の α 、 β 及び γ の数値を定める部分)

(注意) この指定書は、大切に保存しておいてください。

(1) 地盤の許容支持力及び適用範囲

1. 件 名

MYベスト工法

(先端地盤：礫質地盤)

2. 地盤の許容支持力

本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期並びに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

1) 長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{1}{3} \left\{ \alpha \bar{N} A_p + (\beta \bar{N}_s L_s + \gamma \bar{q}_u L_c) \psi \right\} \quad (\text{kN}) \quad \dots (i)$$

2) 短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{2}{3} \left\{ \alpha \bar{N} A_p + (\beta \bar{N}_s L_s + \gamma \bar{q}_u L_c) \psi \right\} \quad (\text{kN}) \quad \dots (ii)$$

ここで、(i), (ii)式において、

α : くい先端支持力係数

先端地盤：礫質地盤 ($\alpha = 400$)

β : ・砂質地盤におけるくい周面摩擦力係数 ($\beta_1 = 2.70$)

・セメントミルク注入区間の砂質地盤におけるくい周面摩擦力係数 ($\beta_2 = 4.25$)

γ : ・粘土質地盤におけるくい周面摩擦力係数 ($\gamma_1 = 0.30$)

・セメントミルク注入区間の粘土質地盤におけるくい周面摩擦力係数 ($\gamma_2 = 0.52$)

$\bar{N}$: 基礎ぐいの先端より下方に 1 D (D : 基礎ぐい先端部の直径)、上方に 1 D の間の地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値 (回)

ただし、 $\bar{N}$ の範囲は $25 \leq \bar{N} \leq 60$ とし、60 を超える場合は 60 とする。

A_p : 基礎ぐい先端の有効断面積 (m^2)

$$A_p = \pi \cdot D^2 / 4$$

$\bar{N}_s$: 基礎ぐい周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値

(回) ただし、 $5 \leq \bar{N}_s$ とし、 $30 < \bar{N}_s$ では $\bar{N}_s = 30$ とする。

$\bar{q}_u$: 基礎ぐい周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値 (kN/m^2)

ただし、 $5 \leq \bar{q}_u$ とし、 $200 < \bar{q}_u$ では $\bar{q}_u = 200$ とする。

L_s : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計 (m)

(基礎ぐい先端から上方 0.5m 区間は考慮しない。)

L_c : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計 (m)

(基礎ぐい先端から上方 0.5m 区間は考慮しない。)

ψ : 基礎ぐい周囲の有効長さ (m)

$$\psi = \pi \cdot D \quad (D : \text{基礎ぐい先端部の直径})$$

3. 適用範囲

1) 適用する地盤の種類

基礎ぐいの先端地盤：礫質地盤。

基礎ぐいの周囲の地盤：砂質地盤及び粘土質地盤。

2) 最大施工深さ

くい施工地盤面-43m：礫質地盤

3) 適用する建築物の規模

床面積の合計が 500,000m² 以下の建築物

4) 基礎ぐいの構造方法

MYベスト工法に使用する基礎ぐいは、平成13年国土交通省告示第1113号第8第二号、第三号、第四号、第五号及び第六号の何れかに基づきコンクリートの許容応力度が規定された既製コンクリートぐいとする。

基礎ぐいの形状は開放杭とし、その標準形状図を図I-3-1、標準寸法表を表I-3-1に示す。

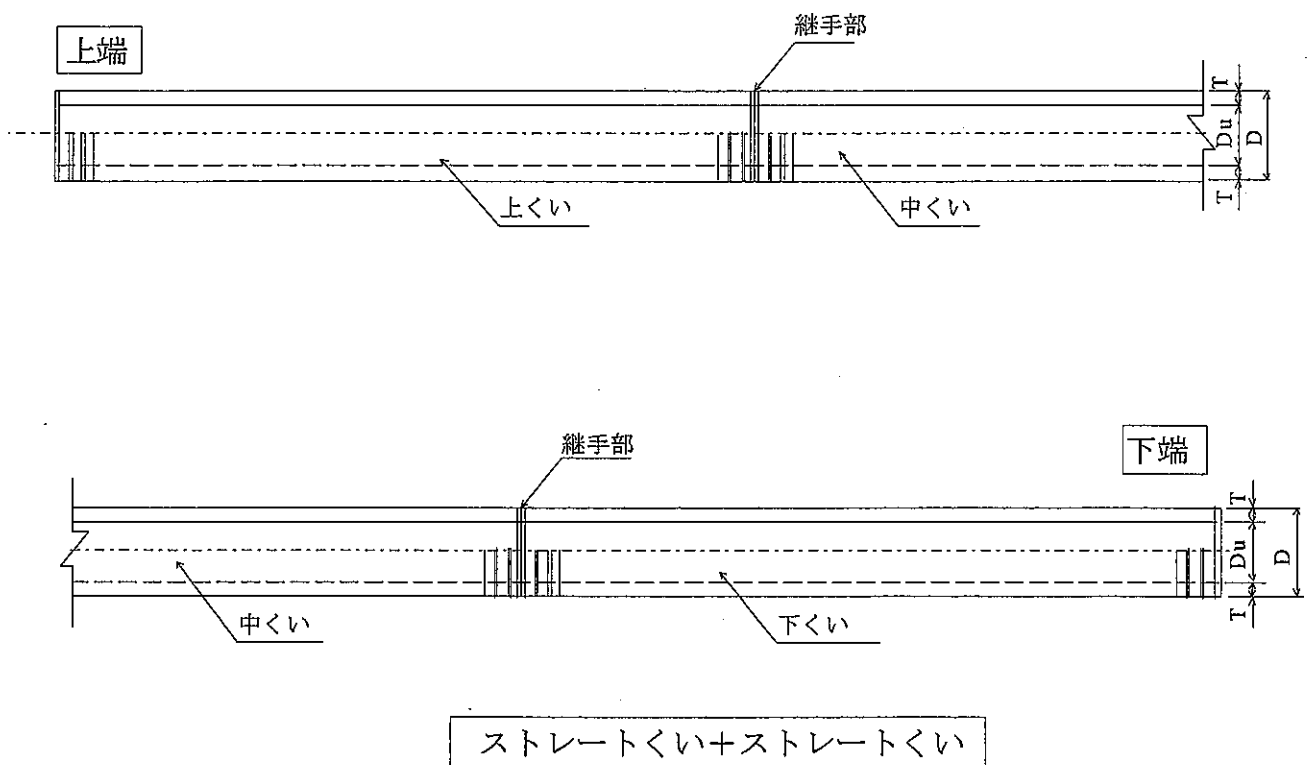


図 I - 3 - 1 標準形状図

表 I - 3 - 1 標準形状寸法表

くい寸法表 【単位:mm】

外 径	D	D _u	T
300	300	180	60
350	350	230	60
400	400	270	65
450	450	310	70
500	500	340	80
600	600	420	90

(注) T, D_uの寸法は参考値であり、Tは最小値を、D_uは最大値を示し、厚肉くいも使用できる。

5) 工事施工者及び管理者

山崎パイル株式会社もしくは、山崎パイル株式会社が承認した指定施工会社とする。ただし、本工法に関する責任は山崎パイル株式会社が負うものとする。

6) その他

本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期並びに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力は単ぐいとしての性能を前提としている。